

17. 看護学部ニュースレターの発行

看護学部では、平成 23 年度から、看護学部学生生活通信『fure-fure』を年 2 回、保護者の皆様に向けて発行している。『fure-fure』とは、学生を応援する気持ちと、学生が誰かを応援できるようになる願いを込めて名付けたものである。学生一人ひとりの学びの過程を教員が見守り、個性を尊重した教育を大切にし、人と人とのつながりを大切にする校風の中で、学生が力強く歩んでいる姿、エネルギー溢れる学生生活を伝えている。

平成 30 年度は 8 月に第 15 号、2 月に第 16 号を発行した。第 15 号では、4 月に就任した藤田看護学部長から保護者の皆様への挨拶と、看護学部の教育では 4 年間を通して学生が 7 つの能力の獲得ができるように支援していることを紹介した。看護学部教務委員長の瓜生教授からは、看護学部の履修モデルを改訂し、看護専門職として活動するための能力の獲得に応じた選択科目を提示して主体的な学びを支援していることを紹介した。各学年担当からは授業や就職ガイダンス、看護研究など学生生活の様子について、看護学部卒業後に大学院に進学した 2 名の学生からは進学のも動機や抱負について、地域の課題解決に向けて地域と協働し学生主体で活動する立志社中プロジェクトからは「健援隊」と「いけいけサロン活動」の様子について紹介した。第 16 号では、看護学研究科の南特任教授より、大学院進学を視野に入れたキャリア開発の必要性について紹介した。9 月に高知市で開催した日本家族看護学会第 25 回学術集会会長を務めた長戸教授より、家族看護の紹介と在学生、卒業生、修了生がボランティアとして学会運営に協力したことや、日頃の実践や研究の成果を発表している様子について紹介した。各学年の学生生活については看護実習や、特別講義、クリスマス会の様子などを学年担当より紹介した。看護学部で選択して学ぶ教育として、助産師コースと養護教諭コースの紹介、在学生からイケあい地域災害学生ボランティアセンターの活動の様子、2 回生からクリスマス会の企画・運営について紹介した。

この学生生活通信が大学からの一方通行にならないように、保護者の皆様の忌憚のないご意見をいただくための連絡窓口のメールアドレスを学生生活通信に掲載し、保護者との連携体制を築き、学生生活を応援していきたいと考えている。今後もこのニュースレターをより充実した豊かなものに発展させていくとともに、保護者の皆様からのご意見を頂戴しながら連携体制を築き、学生生活を応援していきたいと考えている。